

かがやき

中央区教育広報誌 No. 118

ホームページアドレス <http://www.city.chuo.lg.jp/kyouikuiinkai/index.html>

中央区立幼稚園の一年を振り返って



親子遠足 (月島幼稚園)



クリーンデー (明石幼稚園)



春



夏



水あそび (晴海幼稚園)



親子七夕の会 (中央幼稚園)



学芸会 (泰明幼稚園)



運動会 (月島第一幼稚園)



秋



冬



お正月あそび大会 (久松幼稚園)



おもちゃつき (月島第二幼稚園)

マイスクールスポーツ

「体を鍛え、心をはぐくむ一輪車活動」

中央小学校

開校以来 16 年間、特色ある教育活動の一つとして「全校一輪車活動」に取り組んでいる本校は、1 年に 2 回発表会を開催しています。10 月は、低・中・高学年ごとにテーマや曲を決めて行う集団演技と、縦割りの仲よし班ごとに行う「大波小波」の全校演技の発表です。3 月は、個人技の発表です。当日は、多くの保護者・地域の皆様にご参会いただき、子どもたちに大きな励ましの拍手や声かけをいただいています。この発表会を通して、子どもたちは大きな満足感をもち、さらに次の目標に向かって練習をしています。

25m×28m、トラック 1 周約 55m の校庭でも、バランス感覚を身につけているためか、大きなけがはほとんどなく、インフルエンザ等も影響が少なく、子どもたちは、外遊びが大好きで毎日元気に生活しています。

一輪車が伝統として根付いている素晴らしさは、「自分が教えてもらった経験を後輩に引き継いでいる」ことです。「乗って。行くよ。せーの。」とのリーダーのかけ声だけではなく、「大丈夫だよ。ゆっくり。もう一回。」と励ます声があちこちから聞こえてくるのです。

9 月から明正小学校に移り、環境が変わっても、体を鍛え、心をはぐくむ実践を根気強く続けていきます。



「心と体を鍛える なわとび&ペースランニング」

明正小学校

本校では、体力向上の取組の一環として「なわとび」と「ペースランニング」を実施しております。

なわとびは、2・3 学期に強化週間を設け、中休みの後半 5 分間に全校一斉に取り組んでいます。2 月には全校なわとび大会を実施し、技ごとに跳んだ回数を競います。大会に向けて、児童一人ひとりがなわとびカードを持ち、級ごとに設定されているさまざまな技に挑戦しています。また、跳んだ回数を記録するカードを活用しながら、持久力も高めています。さらに、子どもたちは短縄を使った個人技の向上だけでなく、長縄を使ってグループ毎に跳ぶ取り組みをしています。始業前の運動集会時に、たてわり班ごとに上級生が下級生に跳び方を教えたり、「ダブルタッチ」といった競技にも取り組んでいます。強化週間当初は、苦手意識をもっていた低学年の子どもたちが、3 学期には全員跳べるようになり、休み時間には意欲的に取り組む姿が校庭の至るところで見られます。

なわとび強化週間終了後は、ペースランニングに取り組んでいます。なわとび同様、中休みの 5 分間を利用して自分のペースで歩かずに走りきることを目標にしています。

以上のような取組から子どもたちが体力向上だけでなく、目標に向かって挑戦する気持ちや友達と協力する大切さなどの心の成長も願っています。



編集後記

今年度も多くの方々取材や執筆などご協力をしていただきました。来年度も子どもたちの様子が分かる、生き生きとした「かがやき」をめざしてまいりますので、よろしくお願いたします。

中央区教育広報誌「かがやき」では、皆様の声をお待ちしています。
教育委員会事務局庶務課
〒104-8404 中央区築地 1-1-1
☎ (3545) 5503

教育相談室

お子さん自身が、または、お子さんのことで困ったり悩んだりしていることはありませんか？
臨床心理士が様々な相談に応じています。

【来所相談】 ☎ (3545) 9200 (要予約)
教育相談室で、臨床心理士が直接お話をうかがいます。

【電話相談】 ☎ (3545) 9203
高校生までのお子さんについての相談に応じます。
※ どちらも相談料は無料です。

区立教育センター 中央区明石町 12-1
相談日 毎週月～土曜日

定年退職を迎えるにあたって



明石小学校長
岸本 修二

教育の中央区に感謝

昭和四十九年荒川区で教員となり、台東区、板橋区を経て、平成元年度から二十一年間、中央区の六つの学校で勤めました。歴史と文化のある町、にぎわいと人情のある中央区、「教育の中央区」とともに歩むことができ、感謝とともに誇りに思っています。子どもたちの成長を願い「一隅を照らす」思いで仕事をする中、多くの保護者や地域の皆さま、先輩や同僚にお世話になり、大変感謝しています。

本区では、学級担任、教頭、校長と立場は変わりましたが、四校で周年行事を、三校で研究発表会を経験しました。いつも区教育委員会から心強いご指導ご支援を賜りました。学校を愛する保護者、地域の皆さまの熱い

思いに感激することがたびたびでした。また、宇佐美学園副園長として単身赴任した健康学園での生活も忘れられません。美しい自然の中でたくましく成長する子どもたちの姿はすばらしかったです。

教職三十六年最後の学校が明石小学校でした。卒業していった子どもたち、今いる子どもたち、これから入学してくる子どもたちに幸多かれと祈っています。



日本橋小学校長
日本橋幼稚園長
下川 幸雄

感謝の一語に尽きます

三十七年間の教職生活。いよいよ退職と思うと感慨深いものがあります。

江東区、中央区、品川区、八丈島、そして中央区。四地区八校でお世話になりました。中央



月島第三小学校長
晴海幼稚園長
佐藤 和敏

感謝を込めて

「良い教師」は、丁寧に説明する。「優れた教師」は、実際に再現してみせる。「偉大な教師」は、人をやる気にさせる。「教師になるなら偉大な教師」を目指せ」と送り出してくれた大学の恩師の言葉を胸に三十五年間努めて参りました。

今、振り返ってみますと、偉大な教師は言うまでもなく、良い教師にも優れた教師にもなれなかった自分にただ、ただ、恥じ入るばかりです。

そんな未熟な私が何とか定年を迎えることができるのは、一重に縁あって出会った子どもたち、教職員、保護者、地域の方々のご支援、ご協力があったればこそと深く感謝しています。

中央区には、常盤小学校で九年間勤めた後、教頭として品川区に転出し、二度と戻ってくることはないと思っていました。が、幸運にも四年前に戻って頂き、最後に教育の中央区で終えられますことを

衷心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、中央区の教育のますますの発展と更なる充実を心より祈念申し上げます。



佃中学校長
赤坂 寅夫

私にとっての「天地人」

昭和四十七年四月、大学新卒の青二才の私が中央区立第三中学校（現在の晴海中学校、当時は月島第三小学校の場所にありました）に着任し、教員生活を始めました。以来九年間、晴海の職員住宅に住み、三中生と授業や部活の学校生活はもちろん、土日は晴海埠頭の公園で一緒に遊んでいました。

その後、他校での学校生活、千代田区・東京都教委での行政経験を経て、平成十七年、中央区に戻って参りました。

戻ってみると、三中時代の保護者の方々は町内会の役員、当時の教え子達は佃中や佃島小・月一小の保護者として迎えてくれました。佃中の五年間は、「天の声、地の利、人の和」に恵まれ、生徒・

保護者・職員・地域の方々に支えられ、思うがままの充実した教育活動を展開できた、校長冥利に尽きる五年間でした。教員生活の最後を中央区で終えられた最高の幸せ者です。みなさんに感謝・感謝・感謝……



晴海中学校長
渡真利 善

第二のふるさと 中央区

パスポートを片手に教師を志し、沖縄（宮古島）の地を飛び立ち教職に就いて三十七年の歳月が経ちました。その間、多くの教え子、教員仲間、教育委員会の諸先生方、地域の方々とも知り合うことができ、貴重な財産を得ることができました。また、校務の傍らバレーボールに関する職にも就かせて頂き、微力ながら日本のバレーボールの普及と明日のナショナルチームの礎づくりにも携わらせて頂きました。

昭和五十五年、銀座中の前身である中央二中に赴任しました。当時、体育館がなく、しかも校庭の

区では職の違いこそあれ、十思小学校四年、新生日本橋小学校一年、豊海小学校六年、月島第二小学校四年、そして、鮭が母川に戻るが如く最終任地の日本橋小学校で三年。中央区で十八年間お世話になりました。この十八年間で、さまざまな思い出が走馬灯のように去来します。統廃合に尽力した日々。校暦が浅い故に新たな教育活動を試行したこと。百周年を控えたまた地域の再開発に夢を語り合ったこと。そして、いずれの地でも温かく迎えてくださった人々。今思うに何と幸せな年月かと思えます。どの地においてもその時の持つる力で精一杯勤めたつもりです。私の教育のスタンスは「地域あつての学校」ということです。ですから、私は地域（保護者）の方々の声に耳を傾け、時間の許す限り共に過ごさよう心がけてきました。そのことが自分の資質を高め、経営の一助にもなつたと考えております。

それにしても、喜怒哀楽の激しい私を温かく見守り支えて下さった方々。感謝の気持ちで一杯です。深くお礼を申し上げます。

狭さには、言葉も出ませんでした。

一・二中が統合した銀座中を起点として、佃中、晴海中にお世話になり、三十七年の多くを中央区の教育に関わることができました。これまで、さまざまなことがありました。なかでも強く印象にあるのは、連合水泳の見直しで激論を交わしたことです。近年、子どもの体力が低下していく中で、体力向上の重要性を訴え、先人から受け継がれてきた伝統ある連合水泳を続けることができました。今後も四校が共に競い合い発展することを期待します。

最後に、第二のふるさと、中央区に奉職できたことに感謝し、本区の教育の更なる充実と発展を心から祈念申し上げます。



月島幼稚園長
信田 幸子

あしがひびくわづまつた

私は、前半の一七年间は江東区で後半の一七年间は中央区でお世話になりました。中央区では恵まれた環境の中で

仕事に励むことができました。

月島第二幼稚園に採用された翌年、3歳児保育が他区に先駆けて始まりました。初めて3歳児の担任をした私は、まるで予測のつかない3歳児の行動や言葉が通じない状況にも直面し、困惑したことを覚えていきます。しかし、日が経つにつれ純粋で魅力ある存在として惹かれ、教育の原点に触れる貴重な体験となりました。

その後、豊海、明石、月島幼稚園にお世話になりました。明石幼では預かり保育のスタートにかかわり、幼稚園に求められる役割が多様化したことを実感いたしました。

「子どもにとって」を一番に考えてきたつもりでしたが、むしろ私自身が子どもたちに励まされ教えられた日々であったと思えます。

幼稚園の先生になることが幼い頃からの私の夢でしたが、これまで希望をもって続けてこれたのは、保護者や地域の皆さまのご理解と強い信念をもって教育に取り組んでおられる先輩や仲間にも恵まれたからだに感謝しています。

中央区の教育がさらに発展されますことを祈念してお礼の言葉とさせていただきます。

「魅力ある学校」探検



区立小・中学校では、授業公開や特色ある教育活動を展開し、子どもたちのみならず、保護者や地域にとっても「魅力ある学校づくり」に取り組んでいます。今回は、学校と保護者や地域の方々との「ふれあい」を紹介します。

● 有馬小学校 「マナーキッズテニス教室」

平成21年11月18日（水）、3年生を対象にマナーキッズテニス教室が開かれ、保護者が見守る中、テニスで礼儀作法を学ぶ体育・道徳融合授業が行われました。



テニス指導



あいさつの練習

まず、小笠原流礼法鈴木万亀子総師範から正しいおじぎ・あいさつの指導を受けました。鈴木総師範から「背筋をのばし、胸をはり、あいさつをしてからおじぎをします。おじぎは頭を下げるのではなく、腰を折って、心臓を下げます。おじぎが終わったらやさしい顔で相

手を見ましよう。」と教わった子どもたち。その後、子どもたち一人ひとりが先生や中央区テニス連盟の方々からテニスの指導を受けながら、習ったばかりのあいさつを

実践しました。「よろしくお願ひします!」「ありがとうございます!」と目下である子どもたちから目上の指導者にあいさつをします。最初は姿勢が悪く、声が小さかつ

た子どもも、テニスをやりながら自然とあいさつが身に付き、指導者に背筋をのばし、大きな声で敬意を表わしていました。

● 月島第三小学校 「バリアフリー展覧会」

平成21年12月3日（木）から6日（日）まで、PTAや地元企業の協力のもと、視覚のみに頼らずに、誰もが楽しめるバリアフリー展覧会が開催されました。



カリンバのコーナー



蜜蝋（みつろう）ペンワークショップ

際に鳴らして作品の特徴やコンセプトを伝えるなどして大活躍。来場者は触って、嗅いで、聴いて、さまざまな感覚器官で作品を鑑賞していました。また、別の会場ではワークショップも充実しており、来場者は描いた線が膨らむ特別なペンを使って、子どもたちと一緒に絵を描いていました。参加された方の中には「目が見えなくなってきたら絵を描くことを諦めていました。でも、これなら線を触って確認しながら描けますね。」と嬉しそうに話していました。

月島第一小学校開校100周年・月島第二幼稚園開園55周年

平成21年11月14日（土）に記念式典が行われました。式典後は、子どもたちがなわとびや一輪車演技、音楽クラブ演奏などのアトラクションを披露しました。また、手作りの「月二かるた」で多数の来賓の方々や6年生の子どもたちが交流しました。



カンボジア王国ポンペン市 教育関係者が佃中学校を訪問

平成22年1月21日（木）に視察にみえ、校内の各種施設や少人数指導などの授業を見学した後、校長先生らと給食を一緒に食べたトゥウサロム副市長は「教育の質や衛生面に気を配っていることに感動しました。カンボジアの若い世代をいい方向に導いていけるように頑張りたいです。」とお礼の言葉を述べられました。



左から柳副校長、トゥウサロム副市長、ドールサンポール国際協局職員、赤坂校長、エムハムクーン教育局副局長

「あふれる自然に春の訪れ」柏学園を開放!

毎年、桜の咲く時期に区民の皆さんに開放している柏学園は、中央区から電車で約一時間、豊かな自然に囲まれた校外学園です。柏学園の庭では、今、春の陽気に誘われ草木が芽吹き、ちらほらと花を咲かせ始め、春の香りがいっぱいです。春いっぱい柏学園へ、皆さんと一緒に過ごしてください。

【日 時】平成22年4月3日（土）・4日（日）
（雨天実施）午前10時～午後3時30分
【会 場】中央区立柏学園
【交通機関】

◎JR柏駅下車東口、徒歩二十五分
◎阪東バス「戸張」行「柏学園前」下車徒歩五分または「大津ヶ丘団地」行「第五小学校」下車徒歩十分
※ご来園の際は、公共交通機関をご利用ください。

※問合せ先 学務課保健給食係
☎（3546）5516



中央区教育振興基本計画検討委員会から 報告が答申されました

昨年7月3日に教育長から諮問を受け、延べ6回にわたり中央区教育振興基本計画検討委員会が開催され、本区教育振興基本計画に盛り込むべき内容について検討がなされ、このほどその最終報告が答申されました。報告にあたっては、中間報告に対する意見募集が約1カ月にわたってなされ、33件の貴重なご意見が寄せられ、それらを踏まえた報告となっています。

報告としてまとめております。報告書の内容につきまは、これからの中央区の学校教育のために活用していただけることを望んでいます。」とのこと葉をいただきました。教育委員会ではこの報告の趣旨を十分に踏まえ、今年度中に「中央区教育振興基本計画」を策定します。

教育長への答申に際して、葉養委員長からは「政権交代もあり、難しい時期でのとりまとめではありましたが、今後5年・10年と中央区の教育行政を計画的に推進するため、本報告を生かして欲しいと思います。」と、また安藤副委員長からは「各委員それぞれが意見を出し合い、検討委員会



左から、安藤副委員長、高橋教育長、葉養委員長

教育委員 コラムリレー 剣道を通じて教えたいこと、伝えたいこと

〈第4回〉教育委員 松川昭義さん

生まれも育ちも中央区の松川さんは、30年以上に渡って、京橋スポーツ少年団と剣道教室で中央区の子どもたちと接しています。松川さんにスポーツを通じての教育について伺いました。

「剣道」で教える

私は高校生のときに剣道を始めました。しばらくは師範が館長を務める善福寺の玄武館に所属していましたが、30歳のときに中央区剣道連盟に移籍して、そこで出会った先生に頼まれ、中央区の子どもたちに剣道を教えることになりました。鉄砲洲剣友会はその後、京橋スポーツ少年団に発展します。

京橋スポーツ少年団は、「剣道を教える」のではなく、「剣道で教える」ことがモットー。技術の向上がすべてではなく、剣道を学ぶことでさまざまなことを身につけてほしいと願っています。ご存知のとおり、剣道は「礼に始まり、礼に終わる」と言われています。どんなに小さな子どもでも、道場に入るときは「お願いします」と一礼し、靴をそろえて道場に上がる。じっとしていることができなかった子どもが、1年も経てば10分以上正座をすることができるようになる。やはり、しつけは小さい頃からきちんと教えるべきです。

武道でよく言われる精神面についても、例えば寒い冬の日、友だちがコタツにあたってゲームをしているときに、自分は裸足で寒稽古をしている。これだけでも友だちよりも、厳しさを一つクリアしているわけで、このようなことが自信につながるのです。

また、子どもたちの間に一体感が生まれます。必死で掛り稽古をしている友だちを見ていれば、自然に「がんばれ」という声を発しているし、上級生は下級生の面を打つときは手加減してあげています。剣道を通じて仲間意識や他者を思いやる気持ちが育つのではないでしょうか。

褒めれば、子どもは変わる

私の指導方針は、褒めて伸ばすこと。どんな子でも、褒めれば

ばどどん伸びていきます。まず褒めたいです。ここはこうした方がいいという指導をします。すると、子どもはどどん変わっていきますので、指導者



＜プロフィール＞
中央区立明石小学校・文海中学校の卒業生。平成20年12月1日から教育委員に就任。現在、中央区少年少女剣道教室指導員、京橋スポーツ少年団「剣道」団長を務める。「子どもから学ぶことが多い。」「師弟同行」です。」と語る。

も決してあきらめてはいけません。子どもの可能性と成長を見るのも指導者の楽しみの一つですね。

剣道教室には毎年、25～30人くらいの子どもたちが参加してくるので、私に関わった子どもの数は相当なものになります。1,000人近くになるのではないのでしょうか。今年の成人式の日、振袖を着た女の子に「松川先生」と声を掛けられました。剣道を教えた子どもがやっぱり成長していく姿を見るのはとてもうれしく、誇らしいものです。

また、私が若い頃に指導した中には、京橋スポーツ少年団の指導員になっている子もいます。指導者のパト・リレーも順調です。

子どものうちから“本物”を

私は中央区生まれの中央区育ち。自分と同じ中央区の子どもには、子どものうちから感性を磨いてほしいですね。それが豊かな人生を送ることにつながると思いますから。そのためには本物に触れることが必要でしょう。モノも芸術も、そして人間も。本物に接することの驚き、高ぶり、感動が感性を養うのです。

幸い中央区には、本物に触れるチャンスが数多くあります。例えば、理科の授業で宝石店を見学するのもよいし、ギャラリーに本物の絵を見に行くのもよい。音楽会や古典芸能なども、学校の体験教室だけではなく、一般の人たちの中に混じって見てみると「このような場所では静かにしなくてはならない」ということが、子どもながらに場の雰囲気や伝わってくるのです。

この街の貴重な財産を、子どもの教育にさらに生かしてほしいですね。

教育委員会の動き

第12回定例会（平成21年12月9日開催） （可決した議案）

- ◆中央区立幼稚園教育職員の地域手当に関する規則の一部を改正する規則の制定について
- ◆中央区立幼稚園教育職員の管理職手当に関する規則の一部を改正する規則の制定について
- ◆中央区文化財保護審議会への諮問について（報告事項）
- ◆平成21年第4回議会定例会（11月議会）における一般質問について
- ◆中央区教育振興基本計画検討委員会（中間報告）について
- ◆預かり保育（登録利用）の幼稚園児募集について
- ◆意見・要望について

第1回定例会（平成22年1月13日開催） （可決した議案）

- ◆中央区立小学校特別支援学級において平成22年度に使用する教科書の追加採択につ

いて （報告事項）

- ◆平成22年度区立学校の卒業式等の日程について
- ◆意見・要望について

第2回定例会（平成22年2月10日開催） （可決した議案）

- ◆平成22年度中央区教育委員会の教育目標について
- ◆平成21年度中央区一般会計3月補正教育予算案に伴う意見の申し出について
- ◆平成22年度中央区一般会計教育予算案に伴う意見の申し出について
- ◆中央区職員の退職手当に関する条例の改正に伴う意見の申し出について
- ◆中央区教育委員会教育長の給与及び勤務に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ◆中央区立学校設備使用料条例の一部を改正

する条例の制定について

- ◆中央区立幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ◆中央区立幼稚園教育職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ◆平成22年度小・中学校教育管理職の配置について
- ◆平成22年度中央区民文化財の登録について（報告）
- ◆中央区教育振興基本計画検討委員会からの答申について
- ◆平成22年度幼稚園預かり保育の園児応募状況について
- ◆平成22年度中学生海外体験学習の実施について
- ◆平成22年度中央区成人の日記念式典「新成人のつどい」の実施結果及びアンケート調査結果について
- ◆意見・要望について

図書館の春休み子ども会・子ども映画会のお知らせ

図書館では、春休みに、各館で、子ども会や子ども映画会を開催します。楽しい絵本の読み聞かせや、映画の上映をいたしますので、親子でぜひお越しください。

《春休み子ども映画会》

●日本橋図書館

- 〔日時〕平成22年3月24日（水）
午後3時～4時
- 〔会場〕日本橋図書館
6階図書館ホール
- 〔内容〕映画「おぼけのてんぷら」
ほか
- 〔定員〕80名（先着順）
- ※問合せ先 日本橋図書館
☎（3669）6207

●月島図書館

- 〔日時〕平成22年3月24日（水）
午後3時～4時
- 〔会場〕月島社会教育会館
4階和室
- 〔内容〕映画「じごくのそうべえ」
ほか
- 〔定員〕80名（先着順）
- ※問合せ先 月島図書館
☎（3532）4391

《春休み子ども会》

●京橋図書館

- 〔日時〕平成22年3月25日（木）
午後3時～4時
 - 〔会場〕京橋図書館 鑑賞室
 - 〔内容〕大型絵本「にじいろのさかな」ほか
 - 〔定員〕80名（先着順）
 - ※問合せ先 京橋図書館
☎（3543）9025
- 各館とも直接会場へお越しください。



春休み子ども会